

2018 全日本 F3 第 10 戦 第 11 戦 第 12 戦
ツインリンクもてぎ
2018 年 8 月 18 日(土)

予選

観客: 16,500 人

天候: 晴れ

2018 年全日本 F3 選手権シリーズは、後半戦に突入した。台風の影響により 1 戦がキャンセルとなった前戦の岡山大会同様、今回も 3 連戦が予定され、タイトなスケジュールの中、予選と決勝が二日間で行われた。予選は土曜日の午前 8 時 20 分から 30 分間。2 セットのタイヤでアタックが行われ、ベストタイムとセカンドベストタイムによって坪井 翔が第 10 戦、第 11 戦のポールポジションを獲得。チームメイトの宮田 莉朋がセカンドポジションをゲットした。



- 予選は、早朝に行われたため、気温と路面温度が、この時期にしては低めのコンディションであった。
- 1 セット目のタイヤで坪井、宮田の順で 1-2 ポジションを獲得。ツインリンクもてぎのコースに 4 つあるセクターの内、宮田がセクター 1、2、3 で坪井を上回るタイムをマークするが、全体では、坪井が上手くまとめてベストタイムを記録した。
- 2 セット目のタイヤをセットし、宮田は、リヤウイングを 1 ポジションアップ。坪井は、セットアップ変更なし。
- ラバーグリップが増したことによって全体的にラップタイムは向上。両ドライバーは、2 セット目のニュータイヤで記録したタイムで第 10 戦 決勝レースのスターティングポジションを決定した。
- 1 セット目のアタックと同じく、宮田が坪井を上回るセクターもあったが、1 周を上手くまとめた坪井が、今季 7、8 回目のポールポジションを獲得した。
- 第 12 戦のスタートポジションは、第 10 戦の決勝結果によって決定する。

Driver	Car No.	Qualify for 10	Qualify for 11
坪井 翔	36	P1 1:43.484	P1 1:43.657
宮田 莉朋	37	P2 1:43.682	P2 1:43.772

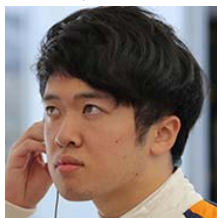
天候	曇り / ドライ	
気温/路面温度	気温 21-22度C	路面 31-35度C

坪井 翔 (36 号車ドライバー)



「2 レース共にポールポジションを取れましたけれど、余裕はないです。前戦の岡山では、今回と同じように練習走行から予選に向けて路面温度が下がる状況を攻略できなかったのですが、今回は上手く合わせ込んでポールが取れました。想像以上に 1 セット目のニュータイヤの温まりが遅く、思った程のタイムが出ませんでした。セクター毎のベストタイムでは、宮田選手に負けているところもありますが、ミスなく 1 ラップを走ることによってポールポジションが取れました。第 10 戦を勝って、第 12 戦もポールポジションからスタートして、まだ達成できていない 1 イベントでのフルポイント獲得を目指します」

宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)



「セクター毎のベストタイムをマークしていながら、全体のベストタイムを出すことができなかったのは反省点ですね。2 セット目のニュータイヤの時にリヤウイングを上げたのは、リヤの落ち着きが足りなかったために変更したのですが、ストレートスピードが落ちてしまって、メリットとデメリットがありました。しかし、決勝に向けては、このセット変更がプラスになると思っているので、良いドライブだったと思います。このコースは抜きにくいのでなんとかスタートで前に出たいです」

吉武 聡 (エンジニア)



「金曜日の練習走行の段階から、予選の時間帯の路面温度を予測してセットアップをしてきているので、それにドライバーたちが上手く合わせてドライブしてくれました。宮田選手は、セクター 1、2、3 のベストタイムで坪井選手を上回っているのに多少のミスもあり、ポール獲得には至らなかった。宮田選手へのセットアップ変更は、セクター 1 ではプラスに働いたのですが、セクター 4 でアンダーステアが強くなってしまったようです。決勝ではスタートでミスをしなければ、勝ってくれるでしょう」

関谷 正徳 (チーム監督)



「今回の結果には、言うことがないですね。二人のドライバー同士、とても緊張感が高い状況です。宮田選手は、速さがありながらもまとめ切れていない。坪井選手は、そんな宮田選手の速さでお尻に火がついているから必死でしょう。二人がそんな環境の中で互いに高め合っている。決勝は、勝つためにスタートがかなりの比重を占めていますから坪井、宮田ともに集中してがんばってもらいましょう」

2018 全日本 F3 第 10 戦 第 11 戦 第 12 戦
ツインリンクもてぎ
2018 年 8 月 18-19 日(土-日)

決勝

観客: 16,500 人/20,500 人 天候: 曇り/曇り

2018 年全日本 F3 選手権は、シリーズの折り返しとなる第 10 戦からの 3 連戦が開催された。すべての決勝で、ポールポジションからスタートした坪井 翔は、チームメイトの宮田莉朋を従えて 3 連勝。ファステストタイムも全戦で記録。自身初めて一大会内でのフルマークのポイントをゲット(第 12 戦は、第 10 戦の決勝結果でスターティンググリッドを決定。ポールポイントは与えられない)。チームは、今シーズン 10 回目、6 戦連続の 1-2 フィニッシュを達成した。



- 坪井は、3 戦とも落ち着いてスタートを決めて、2 位とのギャップを徐々に広げて 3 連勝を飾った。
- 宮田は、第 11 戦のスタートで坪井を上回る好スタートを決めたが、1 コーナーまで距離が短いツインリンクもてぎでは、オーバーテイクまでには至らず、坪井に続くしかなかった。
- 坪井のトータルポイントは 121 点となり、宮田が 42 ポイント差の 79 点となった。
- 全日本選手権チーム部門のタイトル争いでは、王手をかけて、早くも、次戦の結果でタイトル獲得が濃厚となった。
- 台風の影響で一旦キャンセルされた第 9 戦が、次回の岡山大会で行うことが決定。3 レースイベントとして第 9 戦、第 13 戦、第 14 戦が行われることとなった。

Driver	Car No.	Round 10 /Fastest Lap	Round 11 /Fastest Lap	Round 12 /Fastest Lap
坪井 翔	36	P1 1:44.615	P1 1:44.373	P1 1:44.964
宮田 莉朋	37	P2 1:44.742	P2 1:44.423	P2 1:45.070

天候	曇り/ドライ	曇り/ドライ	曇り/ドライ
気温/路面温度	気温 29-28/24-26/27-27度C	路面 43-41/33-35/37-35度C	

坪井 翔 (36 号車ドライバー)

「今回、目標にしていたフルポイント獲得を達成できてホッとしています。走行の時間帯が朝早かったり夕方だったり、路面のコンディションが同日開催のスーパーフォーミュラの走行後でラバーが乗って変化していたり大変でしたが、なんとかスタートを決めて後続を引き離すことができました。三つのレースの中では、第 12 戦が満足ではないですけど一番良かったかなと思います。しかし、1 イベント 3 レースは、かなりきついですね」

宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)

「自分としては、スタートで坪井選手を抜かなくてはならなかったのですが、3 戦とも前に出ることができませんでした。第 11 戦はかなりの接戦に持ち込めて、ファステストラップを獲りたいと思っていたのですが駄目でした。しかし、自分に足りないところを坪井選手は持っていて、今回それが何か分かったので、今後のレースに活かしたいです。次戦の岡山は、キャンセルされた第 9 戦が復活すると聞きました。第 7 戦で僕が勝っているの、ポールからスタートできるんですかね？」



吉武 聡 (エンジニア)

「坪井選手がフルポイント獲得を狙って、それを達成してくれました。マシンのセットアップはまだ完璧ではないのですが、結果としては全て 1-2 フィニッシュで良かったです。宮田選手は、第 12 戦でセクター 1、2、4 のベストタイムをマークしているのに坪井選手に勝てない。それが彼の課題ですね。各戦でのマシンセットアップは、時間帯による路面温度の変化や他のカテゴリー、特にスーパーフォーミュラの走行後は、路面のコンディションが変わるので、それを予測してセットを変えて対処しました」

関谷 正徳 (チーム監督)

「いやー、観戦された方には、完璧すぎて面白くない三つの決勝レースだったと思います。しかし、この 1-2 フィニッシュは、他のドライバーとは圧倒的な差があるハイレベルなドライブだったのです。宮田選手は、確実に速くなってきている。しかし、坪井選手に追いつかない。それはなぜか。坪井選手の経験値がミスのない走りを実現している。それがフルマークの 3 連勝を達成できた勝因。シリーズは、まだ続きます。坪井選手、宮田選手共に気を引き締めて次戦以降へ臨んでほしいですね」

※次戦は、9 月 8-9 日に、岡山県の岡山国際サーキットにて、シリーズ第 9 戦、第 13 戦、第 14 戦が開催されます。